

就学前教育・保育と**学校**教育の
接続・連続性を重視した
学力向上対策



東大阪市教育委員会

平成31年3月



平成 30 年（2018 年）リニューアルされて生まれ変わった東大阪市花園ラグビー場。
東大阪市の新たな名所として、「ラグビーのまち東大阪」を全国・全世界に発信！



「非認知的能力」について

「非認知的能力」という言葉については、現在、国や大阪府において明確に定義づけられたものはありませんが、中央教育審議会や厚生労働省社会保障審議会の各部会では、「社会情動的スキル」といった言葉とともに、その重要性を発信しています。

本冊子では、このいわゆる「非認知的能力」を、社会で豊かに生きていくために必要な「数値では測ることが難しい力」と捉えています。（以下に、その一例をあげています。）

【協調性・創造性・主体性・好奇心・探究心・粘り強さ・挑戦する力・集中力 等】

- ・本冊子に表記する「小学校」「中学校」は、それぞれ義務教育学校の「前期課程」「後期課程」を含んでいます。
- ・また、保育所（園）、幼稚園、こども園を、一部「保・幼・こ」と表記しています。

目次



東大阪市の
マスコットキャラクター
トライくん

1 はじめに 作成の背景

1

～誕生から始まる連続、一貫した教育により一人ひとりの子どもの生きる力を育てる～

2 低学年からの学び（授業内容）を考えるヒント

2

～就学前教育・保育からの学びを理解する～

理論編

🍀 就学前教育・保育の「遊び」には、学びがいっぱい！ P 3
ー環境を通して行う就学前教育・保育ー

🍀 円滑な接続に向けた大切なポイント・・・・・・・・・・ P 5

やってみよう！

🍀 学びの連続性から考える授業内容・・・・・・・・・・ P 7
ー幼児期の学び（遊び）を生かした取組みー

🍀 スタートカリキュラム作成に向けて・・・・・・・・・・ P 15

＜参考＞スタートカリキュラムを創ろう！・・・・・・・・・・ P 18

エピソード

🍀 教職員の声（気づき）より・・・・・・・・・・ P 19

3 低学年からの「よりよい学び」に向けて

21

🍀 学級づくり編・・・・・・・・・・ P 22

🍀 授業編・・・・・・・・・・ P 23

🍀 生活編・・・・・・・・・・ P 24

4 新1年生の「よりよいスタート」に向けて

25

🍀 学校生活支援カード・・・・・・・・・・ P 26

5 チーム学校園所（東大阪）で子どもの成長を見とろう

27

🍀 学びのトライアルアンケート【児童・生徒用】・・・・・・・・ P 28

はじめに 1 作成の背景

～誕生から始まる連続、一貫した教育により一人ひとりの子どもの生きる力を育てる～



平成 29 年 3 月 31 日、新しい学習指導要領が公示され、各教科等における教育目標や内容が、「資質・能力」の三つの柱を踏まえて再整理されました。

一方、同時に改訂された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針においても、

- ♣ 「知識及び技能の基礎」
- ♣ 「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ♣ 「学びに向かう力、人間性等」

の三つの柱から構成される「資質・能力」を一体的に育むように努めることを示し、幼児期の教育の特質を踏まえた、内容の見直しが図られています。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として示されています。

これらにより、就学前教育・保育と就学期の教育、さらには高等教育まで、縦のつながりで見通していくことができるようになりました。

さらに、小学校学習指導要領には「学校段階等間の接続」が新たに示され、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の実現への期待が高まっています。

しかしながら、遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なることから、その円滑な接続は決して容易ではありません。

この課題に應える具体的な手立てとして、本手引きが活用されることにより、子どもたちが主体的に自己を発揮し、学力向上への一歩となることを切に願っています。

最後に、本冊子作成にあたりご協力いただきました、東大阪大学副学長 吉岡真知子様をはじめ、8 学校園の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

<協力校園>

- ・学校法人大阪錦城学園 幼保連携型認定こども園 八戸の里幼稚園
- ・学校法人谷岡学園 大阪商業大学附属幼稚園
- ・社会福祉法人 累徳学園
- ・幼保連携型認定こども園 東大阪市立小阪こども園
- ・東大阪市立小阪中学校・小阪小学校・八戸の里小学校・八戸の里東小学校

平成 31 年 3 月

東大阪市教育局
教育長 土屋 宝土

2 低学年からの学び（授業内容）を考えるヒント

～就学前教育・保育からの学びを理解する～

就学前教育・保育の中で大切に育ててきた、それぞれの育ち・学びを、いかに受け継ぐのか、それが**小学校の役割**でもあり**子どもの利益**。

理論編

毎日、「遊び」を通して、
「主体的」・「対話的」で「深い」
学びにつながっているよ！

☞P3

就学前教育・保育の「遊び」には、
学びがいっぱい！

理論編

「教科書はないんだよ」
日々の経験が学びに
つながるんだよ。

☞P5

円滑な接続に向けた
大切なポイント

やってみよう！

授業でどんな工夫が
できるかな？

☞P7

学びの連続性から
考える授業内容

【エピソード】

「円滑な接続と実践」をテーマ
に、
「保・幼・こ」と小・中学校の教
職員が真摯に話し合った実際の声
はこちら。

☞P19

教職員の声（年次別）

<参考>

スタートカリキュラムの編成の
仕方・進め方がイメージできるよ。

（「国立教育政策研究所」資料）

☞P18

スタートカリキュラムを創ろう！

就学前教育・保育の内容について、より深く理解するためには、就学前教育・保育に携わる方々に聞いてみよう！



就学前教育・保育の「遊び」には、学びがいっぱい！

—環境を通して行う就学前教育・保育—

平成 30 年度から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行となりました。

(参考) 文部科学省ホームページ

◆改訂について

教育に関する部分の方向性の共通化が図られ、全ての子どもが質の高い幼児教育を受けられるようにすることをめざしています。

また、これまでと変わらず 5 領域＜健康・人間関係・環境・言葉・表現＞※1 (P4) に基づき、幼児教育をすすめていきます。

◆主な改善事項

○教育において育みたい資質・能力(「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」)を明確化

○5 歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」※2 (P4) として明確化

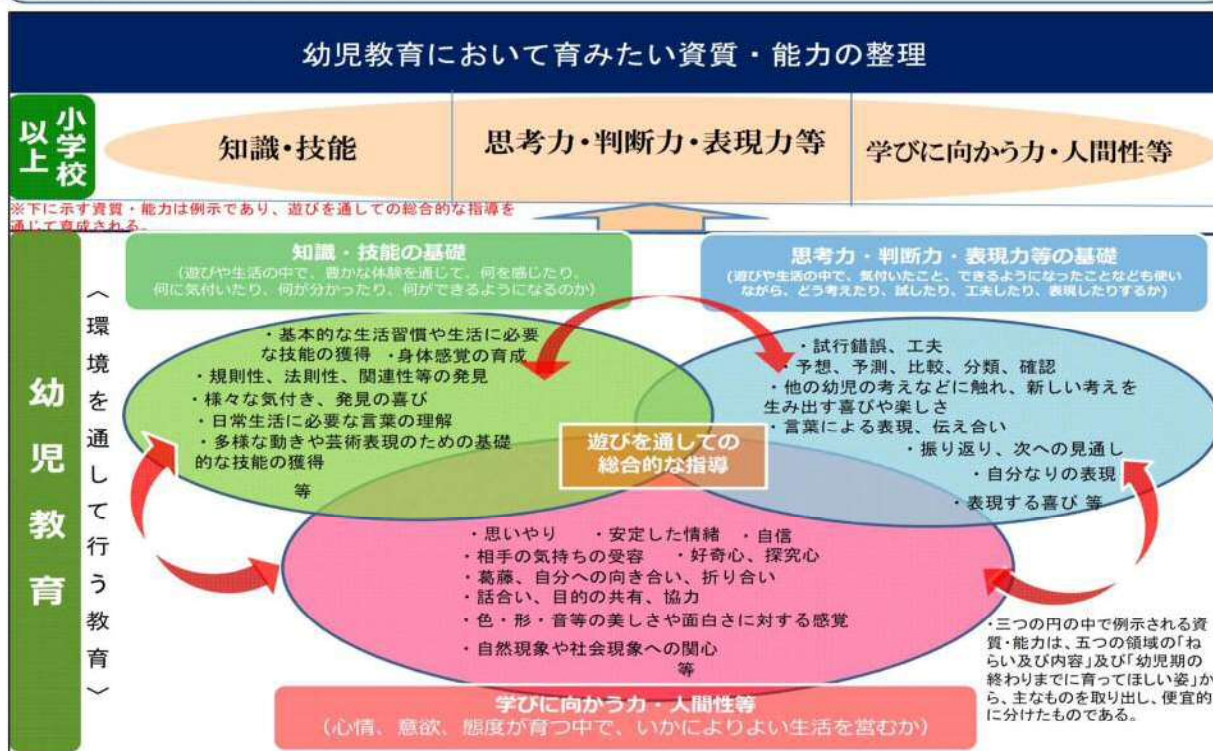
○我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむことなど、教育内容の充実を図ったこと

「保・幼・こ」・小・中の教育の一貫性

育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、平成 32 年度から全面実施される新小学校学習指導要領にも明示されています。子どもは遊びの中で、自然に学びの力を育んでいます。子どもの育ちを教職員がこれまで以上に互いに共有し、校園種間の円滑な接続や教科等横断的な学習をすすめ、就学前教育・保育と初等中等教育の一貫した学びを充実していきたいと考えています。

就学前の遊びをより豊かにするために、環境(人的・物的)の構成を考え、子どもの姿と関連させながら変容を見とり、教育・保育の充実に一層つなげたいと考えています。幼児期に、様々な体験を通して育む「楽しい」「やってみたい」という主体性を、就学後にもつなげていくためには、それぞれの学校園所の教職員が教育活動及び子どもの姿を十分に話し合うことが大切です。

「保・幼・こ」・小・中および各中学校区で子どもの育ちを共有していただき、平成 31 年度より始まる、就学前から連続性を重視した小中一貫教育に向けて、今後さらに就学前教育・保育と学校教育を推進していきたいと思います。



(参考) 文部科学省 幼児教育部会における審議のとりまとめ

「5領域」とは… ※1

幼児の発達の側面から各領域としてまとめられ、相互に関連をもちながら、園生活の全体を通じ、幼児の様々な体験を積み重ねていきます。

○「健康」(心身の健康に関する領域)

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

○「人間関係」(人との関わりに関する領域)

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

○「環境」(身近な環境との関わりに関する領域)

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

○「言葉」(言葉の獲得に関する領域)

経験したことや考えたことなどを自分なりに言葉で表現し、相手の話す言葉を聴こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

○「表現」(感性と表現に関する領域)

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは… ※2

①健康な心と体

幼稚園(保育所・幼保連携型認定こども園)生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園(保育所・幼保連携型認定こども園)内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

⑧数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生(保育教諭等)や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



円滑な接続に向けた大切なポイント



幼児が夢中になって遊んでいる姿を、
どうしたら小学校の教科学習に
つなげられるのかな？

(ねらい)

「就学前教育・保育」と「小学校」の接続における子どもの学びと育ちを考え合うことで、互いの教育の理解を深め、よりよい実践につなげる。

就学前教育・保育と小学校教育の方法は異なりますが、子どもの育ちをつなげていくためには、教育・保育の目的の連続性・一貫性をもたせることが大切です。

0歳からの子どもの育ちや学び、保育・教育活動、教職員の役割がどのようにつながっているかを整理し、学びを図式化しました。

【活用しよう！】

- 「保・幼・こ」と小・中学校の先生方が一緒に、誕生から15歳までの学びと育ちやその連続性について考えましょう！

＜学びの見える化…P6 参照＞

幼児が「何を」「誰と」「どのように」するのは、興味や関心等の心の動き、遊びの深まり、経験とともに日々変化します。また、繰り返し遊ぶ中で、自分で考えて行動するという主体性や、教職員、友だちと関わり、人とつながる楽しさから、協同性が育まれていきます。

そして、幼児期に育まれた自己肯定感等は就学期の学びの意欲へとつながっていきます。

- 「保・幼・こ」や小・中学校の参観等を通して、学びのつながりをふり返りましょう。

- 校区で学校園所生活における学びのつながりの気づき等、エピソードを語りあうことで、接続のヒントにつなげましょう。

＜先生方の声(気づき)より…「エピソード」(P19～20)参照＞

小学校の学習指導要領において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。」と記載されています。

教科等の中で、つながっていく力 <例>

- <国語>自分の思いを伝える、語彙を豊かにする(擬音語、擬態語)等
 <算数>形、数、高さ、量の感覚等
 <生活>自然や周囲の人への興味・関心、活動や体験を通しての学び等
 <体育>バランス感覚、体づくり等
 <音楽>リズムや音の面白さ、歌詞から情景や気持ちを想像する等
 <図画工作>想像力等

15歳の春

小学校教育

～経験を土台に、学習の中で見られる児童の姿を伸ばしていく～

学習のねらい／めあてを明確にする

<児童の姿>

- ・話を聞く
- ・知る楽しさやおもしろさに気づく
- ・自分で学ぼうとする
- ・知っていることや、自分の思いを相手に伝えることを楽しむ
- ・友だちと意見や考えを交流する中で学ぶ
- ・方法を知り、学びに生かす
- ・身近にあるものを活用する
- ・学習方法の選択をする
- ・学習のめあてをもち、振り返りを行う 等

一緒に学ぶ楽しさ・おもしろさ
児童が培ってきたことを知り、つなげる

<教職員のかかわり>

- ▶児童の姿や実態の把握をする
- ▶児童の声に耳を傾ける
- ▶児童の姿や背景にあるものを知る
- ▶導入の工夫をする
- ▶子どもが学び方の選択をできるようにする
- ▶人の意見を聴き、自分で考える力をつけていけるようにする
- ▶授業をふりかえる中で、学習方法や形態を工夫する
- ▶児童のこれまでの体験を知り、生かす 等

子どもの交流・実態把握

円滑な接続

学び・育ちを生かす活動・環境構成

教職員の連携・協力

体験(五感)を通しての学び・発見

活動のねらい／内容を明確にする

<幼児の姿>

- ・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす
- ・生活習慣や健康な生活リズムを身につける
- ・自分なりにできることや良い方法を考える
- ・様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ
- ・遊びの中で、文字や数字に関心をもつ、数や量の感覚を身につける
- ・言葉等に興味関心をもつ
- ・人の話を聞いたり、自分の思いを話したりする
- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現する
- ・見立てて遊ぶ、共有する

<教職員のかかわり>

- ▶幼児の活動や変化の丁寧な把握
- ▶幼児の気持ちに寄り添う(幼児の感動、努力、工夫等)
- ▶時間の保障
- ▶環境の工夫(用具の置き方、出し方、数量等)
- ▶先を見通した保育展開
- ▶子どもの発達に応じた支援
- ▶子どもへの豊かな表現(言葉・動き等)
- ▶友だちとの関わりの支援
- ▶次の活動への意欲につながる支援
- ▶思いが実現できるような言葉かけ

自己肯定感

人と関わる楽しさ

自己発揮と自己抑制を調整する力の育成

- 友だちとの協力の中で
- 共通の目的に向かって頑張り、達成感を味わう
 - 役割分担ができる
 - 相手への信頼
- 友だち関係の広がりの中で
- 自分の気持ちを調整し、相手との折り合いをつける
 - 葛藤・憧れ
- 自己主張・他者受容の中で
- チャレンジ精神旺盛
 - 貸借・順番・交代ができる

人との信頼関係の構築

- 身近な人と気持ちが通じ合う中で
- 身近な大人と愛着、信頼関係をつくり、安心感や満足感を抱く

協調性

コミュニケーション力

共感性

探究心

主体性

創造性

喜び

安心感

就学前教育・保育

誕生

人格形成のスタート

子どもの遊び・表現等

教職員のかかわり

発達の主な特徴

※非認知的能力

※非認知的能力については、表紙裏面を参照



やってみよう！

学びの連続性から考える授業内容

－幼児期の学び（遊び）を生かした取組み－

できるように
なってきたね。

（就学前）



いろいろ教えなくては！
もうちょっとできるように
なってほしいな…

（小学校：スタート）

（ねらい）

遊びの中で育つ力を知り、小学校教育への学びのつながりを理解する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と遊びの関連性を図式化し、遊びの中で「子どもが何をどのように学んでいるのか」等の幼児期の学びの芽生えを小学校の自覚的な学びにつなぐ手立てとなるように作成しました。（P12～14）

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。（「幼稚園教育要領解説 第1章第2節3」より）

就学前教育・保育では…

子どもたちは…

主体的に環境に関わりながら遊び、その中で様々な力を育んでいます。＜個＞

子どもどうしが互に関わり、協力し合うことで、自分の良さとともに、他者を大切にする事の大事さを学んでいます。＜集団＞

教職員は…

日々の遊びや生活の中で、活動のねらいが達成されるように、幼児の心が動くような様々な遊び環境を整えています。

一人ひとりの子どもの心に寄り添いながら、気づきや試行錯誤する姿を見守ったり、子どもどうしをつなげたり仲立ちをしたりしながら、育ちを支えています。

「子どもの実態」「興味や関心の広がり」「生活や遊びに取り組む姿」「友だちや教職員との関わり方の変容」「天気や自然の変化」「保護者の願い」等をふまえ、随時・柔軟に、教育・保育計画の修正や変更を行っています。

＜評価については…＞

幼児一人ひとりのよさや可能性などを把握し、幼児理解に基づいた評価を行っています。また、その把握した内容を記録し、日頃から保護者と確認、共有しています。

※他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって、捉えるものではありません。

ここでは、**体育、国語、算数、生活**を取り上げるよ。
それぞれの内容等にあるつけたい力を獲得するために、
就学前教育・保育での経験を生かして、授業で**工夫**
できることを考えよう！また、他の教科等にも置き換えて考えてみよう！



その際、P12～14にある就学前教育・保育の「～活動の広がり」と学び～の図にある**キーワード**をヒントにしてみてね！
就学前教育・保育に携わる先生方と一緒に考えると、よりよい工夫が思いつくかもしれないね。（P19～20の「エピソード」参照）

就学前教育・保育を授業内容に生かそう！ 【体育】

やってみよう！

体づくりの運動遊び

体を動かす心地よさを味わったり、基本的な動きを身につける

◆就学前教育・保育では、様々な運動遊びを通して、十分に体を動かす楽しさや気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲を育てることを大切にしている。

♥(例) 1年生でも、体を動かす心地よさを味わえるよう、いろいろな運動遊びの楽しさに触れさせよう。

表現・リズム遊び

題材になりきったり、リズムに乗ったりして踊る

◆就学前教育・保育では、例えば、縄跳び等をする中で、自分なりの目標をもって何度も挑戦したりしている。

♥学校教育では・・・

就学前教育・保育における子どもたちの経験を生かして、各教科の授業で工夫できることを考え、空欄の中(♥)に書き出してみよう！



<ゼロからじゃないよ>
つなげて、スタート！

物事をやりとげる

安全に気をつける

戸外で遊ぶ

・・・

喜び・悔しさを共感する

友だちと積極的に関わる

就学前 教育・保育

・・・

先生や友だちと遊ぶ

・・・

健康への関心

遊具・用具を大切に使う

ゲーム

易しいボールゲームや鬼遊びをする。

水遊び

水につかって歩く、走る、もぐる、浮く

器械・器具を使つての運動遊び

固定器具、マット、鉄棒、跳び箱を使った運動遊びをする

◆就学前教育・保育では、例えば平均台や跳び箱等を橋や山等に見立て、イメージを膨らませながら楽しく遊ぶ中で、自然にいろいろな体の動きが身に付いている。

♥学校教育では・・・

走・跳の運動遊び

いろいろな方向に走る、低い障害物を取り越える、前方や上方に跳ぶ、連続して跳ぶ

◆就学前教育・保育では、例えば、鬼ごっこ等くり返し遊ぶ中で、自分たちでルールを考える等遊びがより楽しくなるように工夫している。

♥(例) 1年生でも、きまりを守って遊ぶ体験の他に、考えを出し合い、創意工夫して遊ぶ楽しさを体験できるようにしよう。

就学前教育・保育を授業内容に生かそう！

【国語】

学びに向かう力、人間性等

思いや考えを伝え合おうとする態度を養う

思考力、判断力、表現力等
(話すこと・聞くこと／書くこと／読むこと)

伝える力を高め、思考力や想像力を養う

<ゼロからじゃないよ>
つなげて、スタート！

◆就学前教育・保育では、**絵本の読み聞かせ**などをする中で、イメージをふくらませることを楽しんでいる。
●**学校教育では**・・・

◆就学前教育・保育では、**話し合いやふり返り**などを大切にしている。
●(例) 自分の行動や出来事をふり返り、気づきや困り感も含めて感じたことなどを話し合う時間を設けよう。

◆就学前教育・保育では、日常生活の中で文字に興味や関心をもてるような環境を大切にしている。子どもたちは、遊びの中で友だちに**自分の気持ちを伝えたいなどの思い**から文字を使って表現している。
●(例) 1年生の『ひらがなの学習』では、身近な言葉とリンクさせ、文字を学ぶ喜びや楽しさが感じられるようにしよう。

◆就学前教育・保育では、子どもたちが教職員や友だちの話に**興味をもって聞き、理解すること**で、**言葉での伝え合いを楽しむ経験**をしている。
●**学校教育では**・・・

就学前教育・保育



知識及び技能

国語の知識や技能を身につける

就学前教育・保育を授業内容に生かそう！ 【算数】

数と計算

ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力

◆就学前教育・保育では、遊びの中でいろいろな形があることを知り、偶然にできる形の面白さに気付く経験をしている。

♥(例)『かたちづくり』の授業の導入でも、自由に形を作る活動を取り入れ、図形を組み合わせる概念の定着を図ろう。

◆就学前教育・保育では、日常生活や遊びの中で子どもが必要から、例えば収穫物や積み木を並べたり、数を数えたりする経験をしている。

♥学校教育では・・・

データの活用

データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力

◆就学前教育・保育では、遊びの中で友だちと物を分けたり合わせたりする経験をしている。

♥(例)『たしざん』の学習でも、子どもたちが具体的な物を使って、課題に向き合えるように、準備をしよう。

図形

ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力

◆就学前教育・保育では、例えば、色水づくりや泥だんどづくりなどの遊びを通して、量や大きさを比較しながら、ちがいに気付く経験をしている。

♥学校教育では・・・

測定

身の回りにあるものの量に着目して特徴を捉え、量の大きさの比べ方を考える力

<ゼロからじゃないよ！
つなげて、スタート！



やってみよう！

就学前教育・保育を授業内容に生かそう！

【生活】

学びに向かう力、人間性等

自分と身近な人々、社会及び自然
とのかわりに関心をもつ

思考力、判断力、表現力等

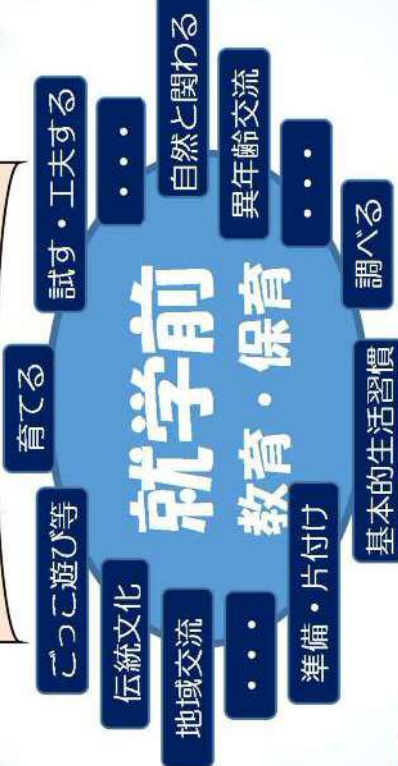
自分自身や自分の生活について
考える

◆就学前教育・保育では、例えば、地域の方に昔遊びや餅つき等に協力いただく中で、**交流や伝統文化を継承する機会**を大切にしている。
♥(例) 学習の場は、教室の中に限定せず、校内や学校の周り、地域に出て行き学習しよう。

<ゼロからじゃないよ>
つなげて、スタート！

◆就学前教育・保育では、異年齢で関わる活動を大切にする中で、**憧れやいたわり、思いやりの気持ち**が育まれる。
♥**学校教育では**・・・

◆就学前教育・保育では、例えば、木の実集めや水など季節を感じながら自然に触れる遊びを通して、子ども達が**自然の美しさや変化、不思議さに気付く経験**をしている。
♥**学校教育では**・・・



◆就学前教育・保育では、例えば、発見したこと、感じたことなど**子どもの思いに共感し、意欲がもてる**ような言葉かけをしている。
♥**学校教育では**・・・

やってみよう！

◆就学前教育・保育では、例えば、様々な遊びの中で**試行錯誤**する経験を大切にしている。
♥(例) 1年生でも1年生の特徴を配慮し、**具体的な活動や体験を通して**、気づいたり考えたりする授業を実践しよう。考えを深めることができるような場や時間を設定しよう。

知識及び技能

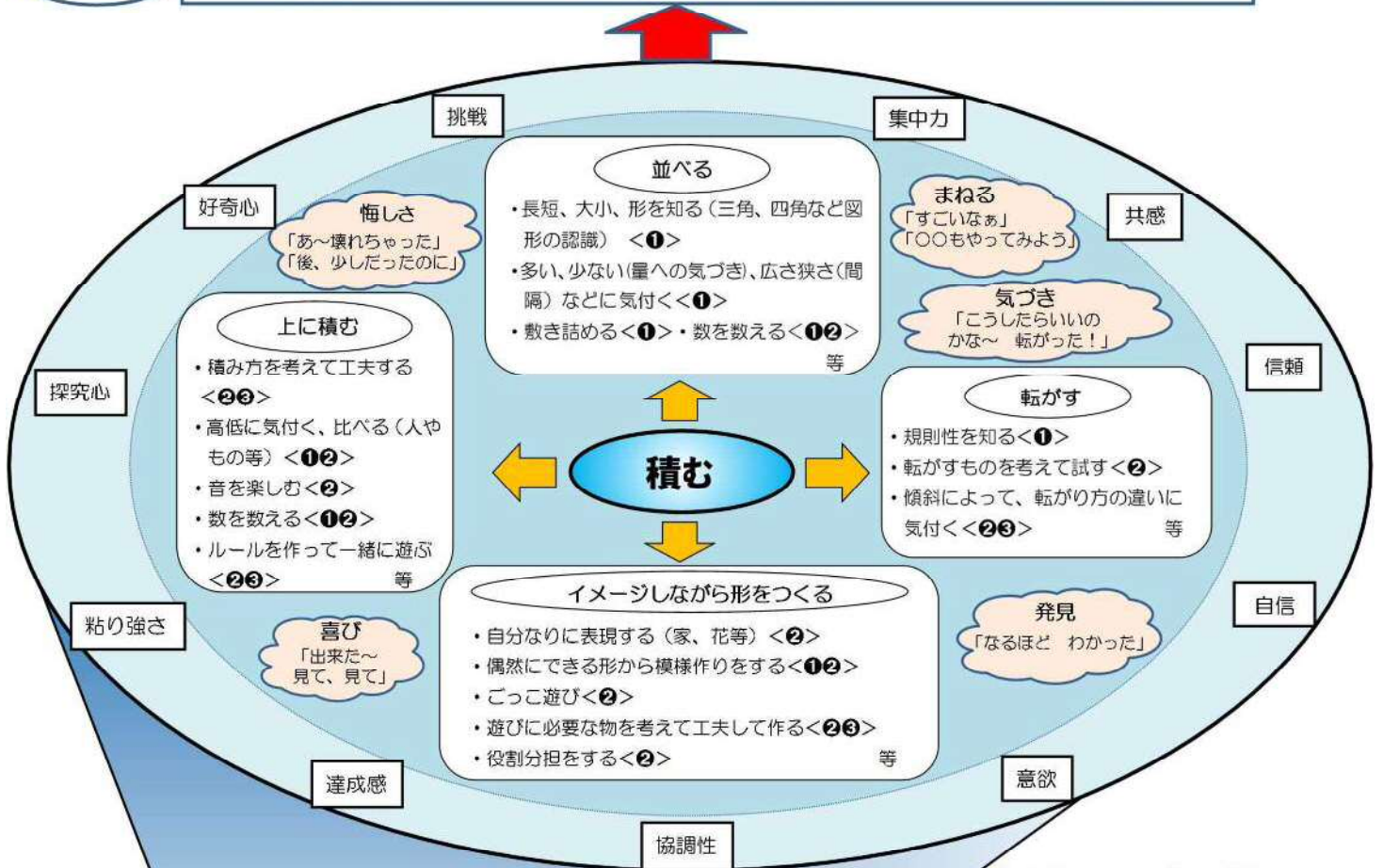
生活上必要な習慣や技能
を身に付ける

小学校以上

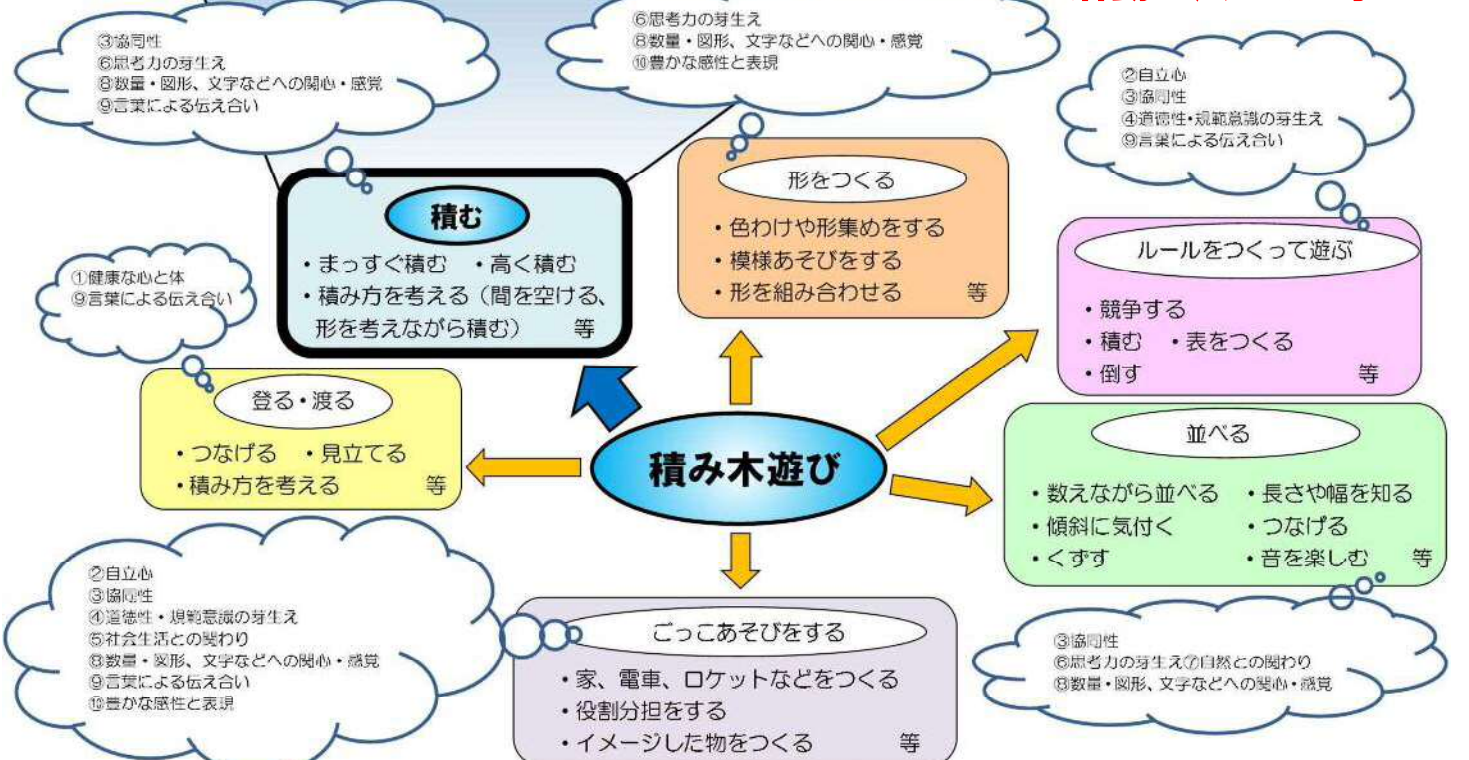
① 知識や技能

② 思考力・判断力・表現力等

③ 学びに向かう力、人間性等



「積み木遊び」 ～活動の広がり学び～

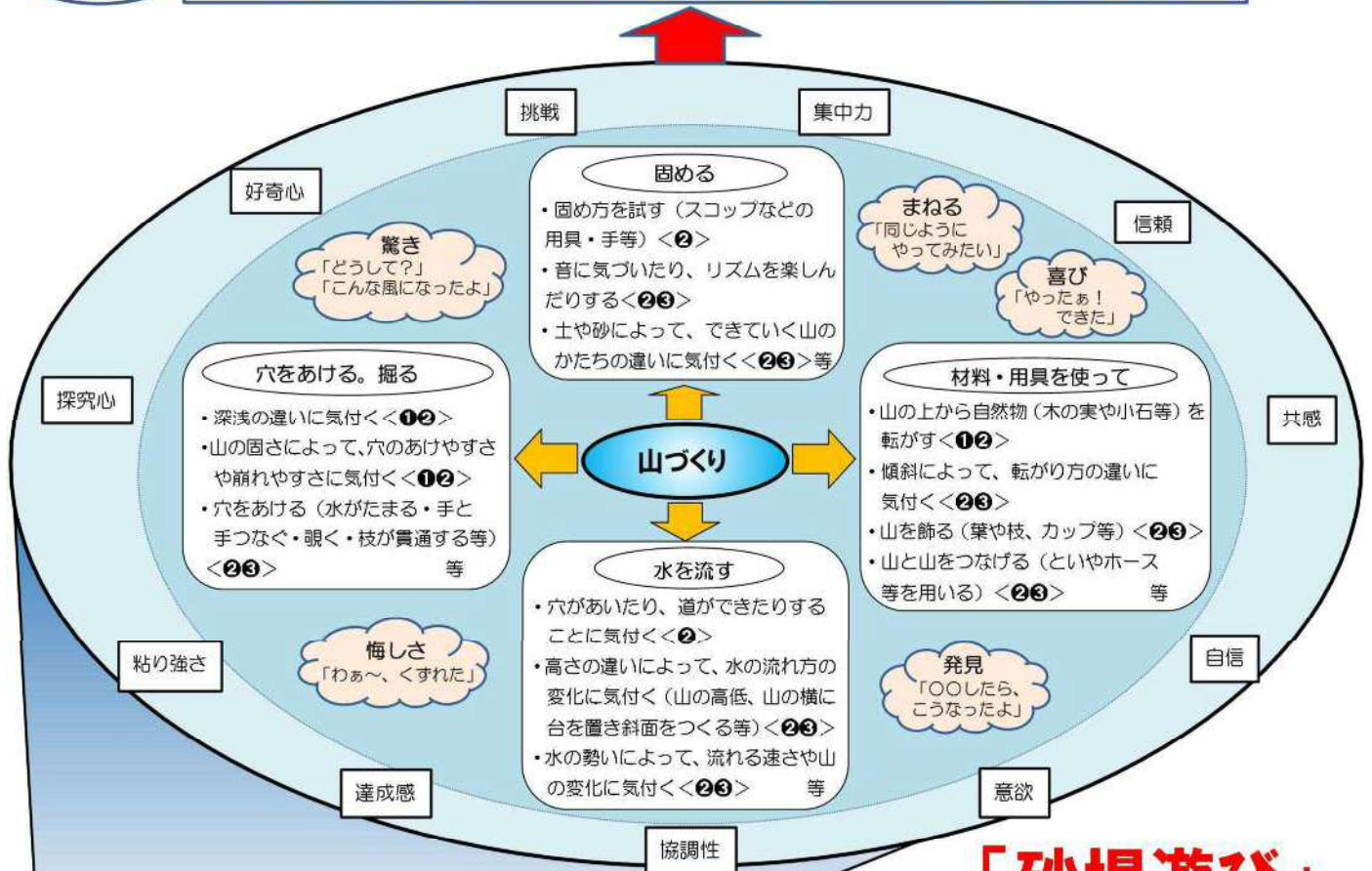


小学校以上

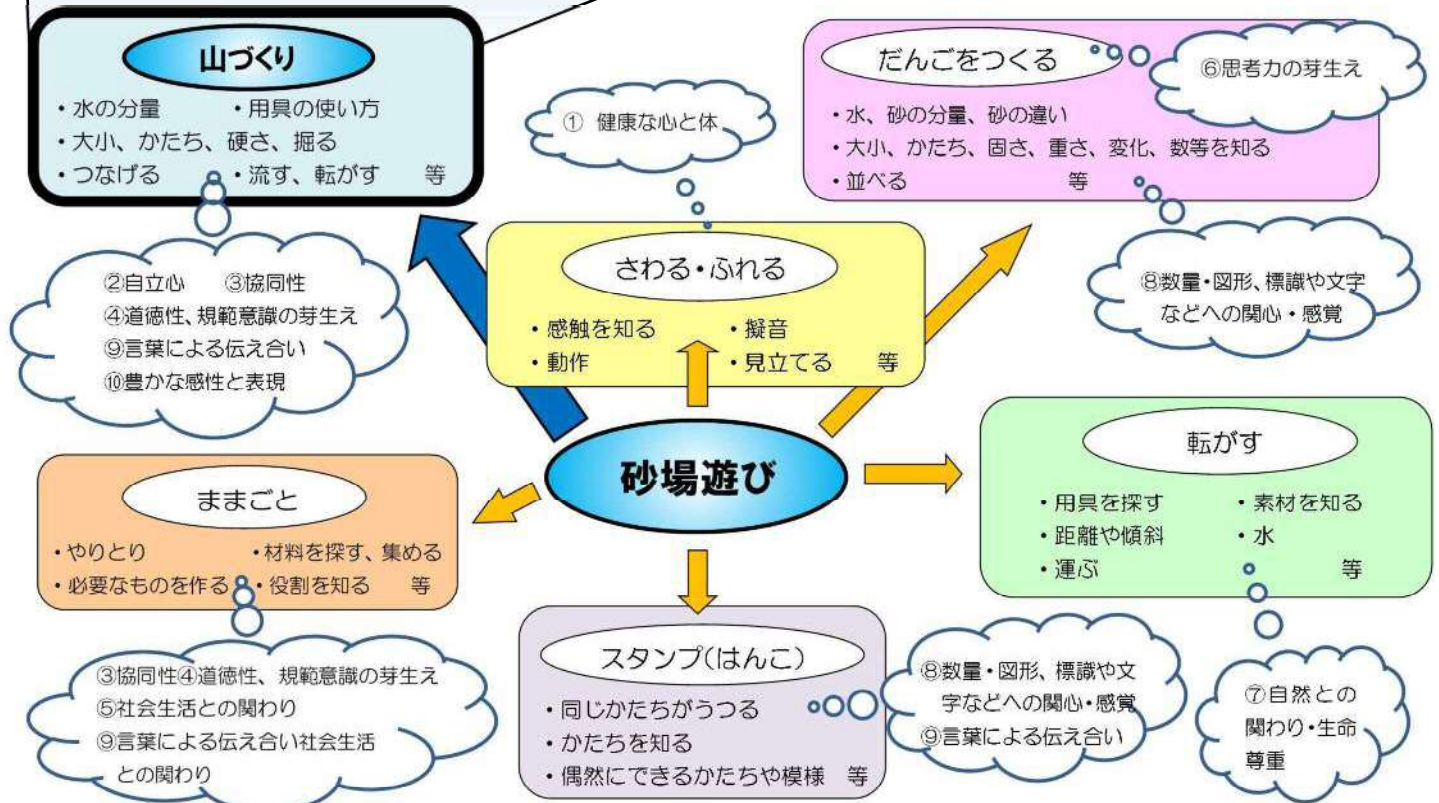
① 知識や技能

② 思考力・判断力・表現力等

③ 学びに向かう力、人間性等



「砂場遊び」 ～活動の広がりと学び～



下図の見方



具体的な遊びの一例を表示。
活動から広がる具体的な遊びを表示。

①②・・・
「幼児期の終わりにまでに育ってほしい10の姿」の主と考えられるものを表示。

上図の見方



活動内容の一例を表示。
活動を通じた経験や体験、発見などを表示。



非認知的能力の一部分を表示。

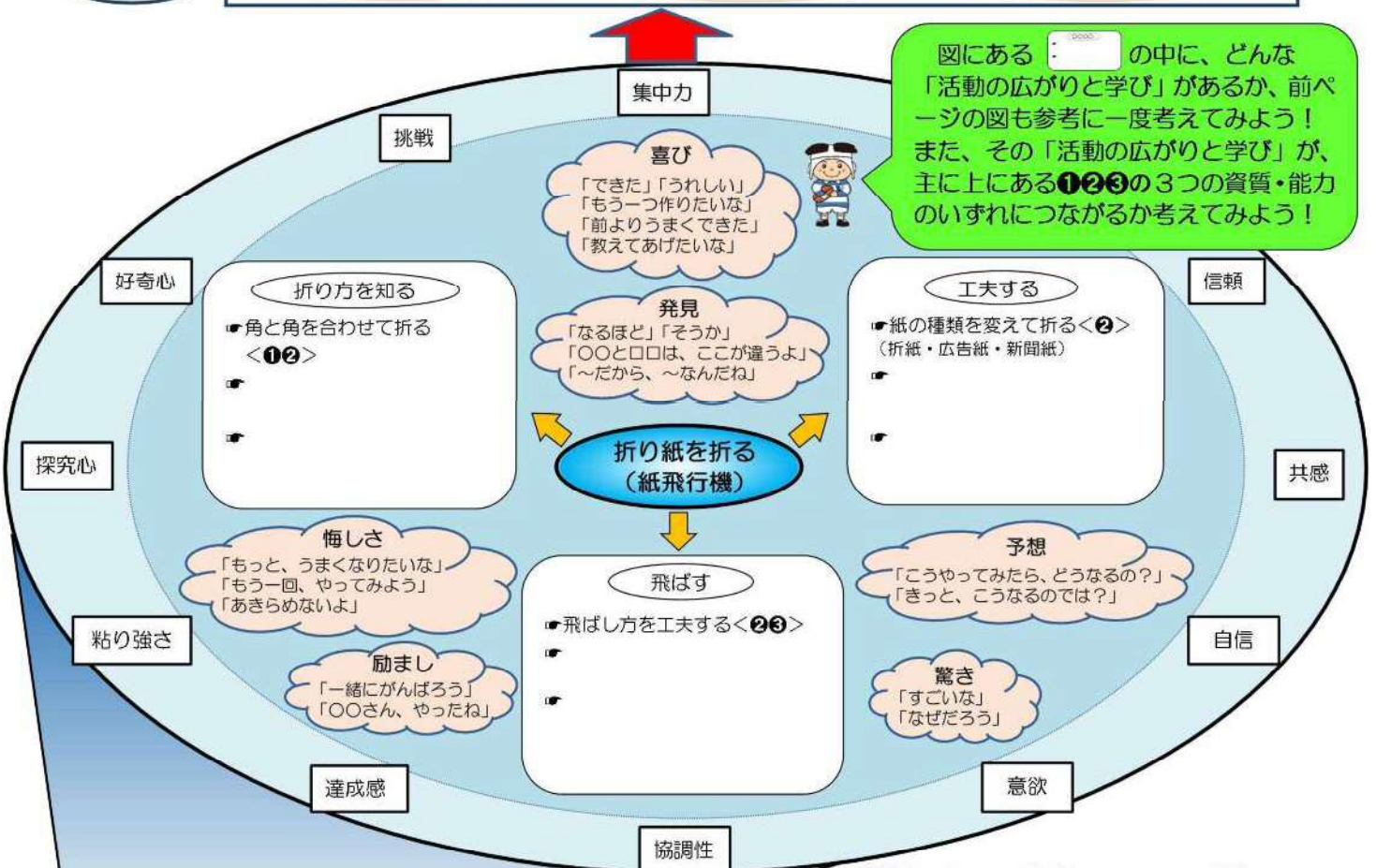
子どもの心の動き・心の声。

小学校以上

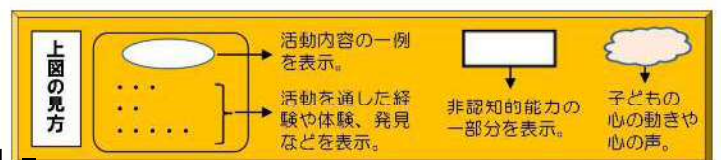
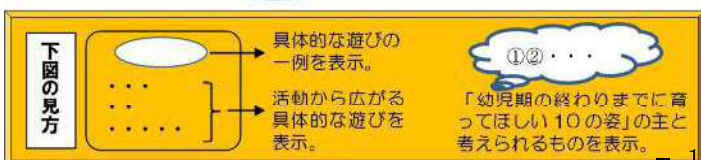
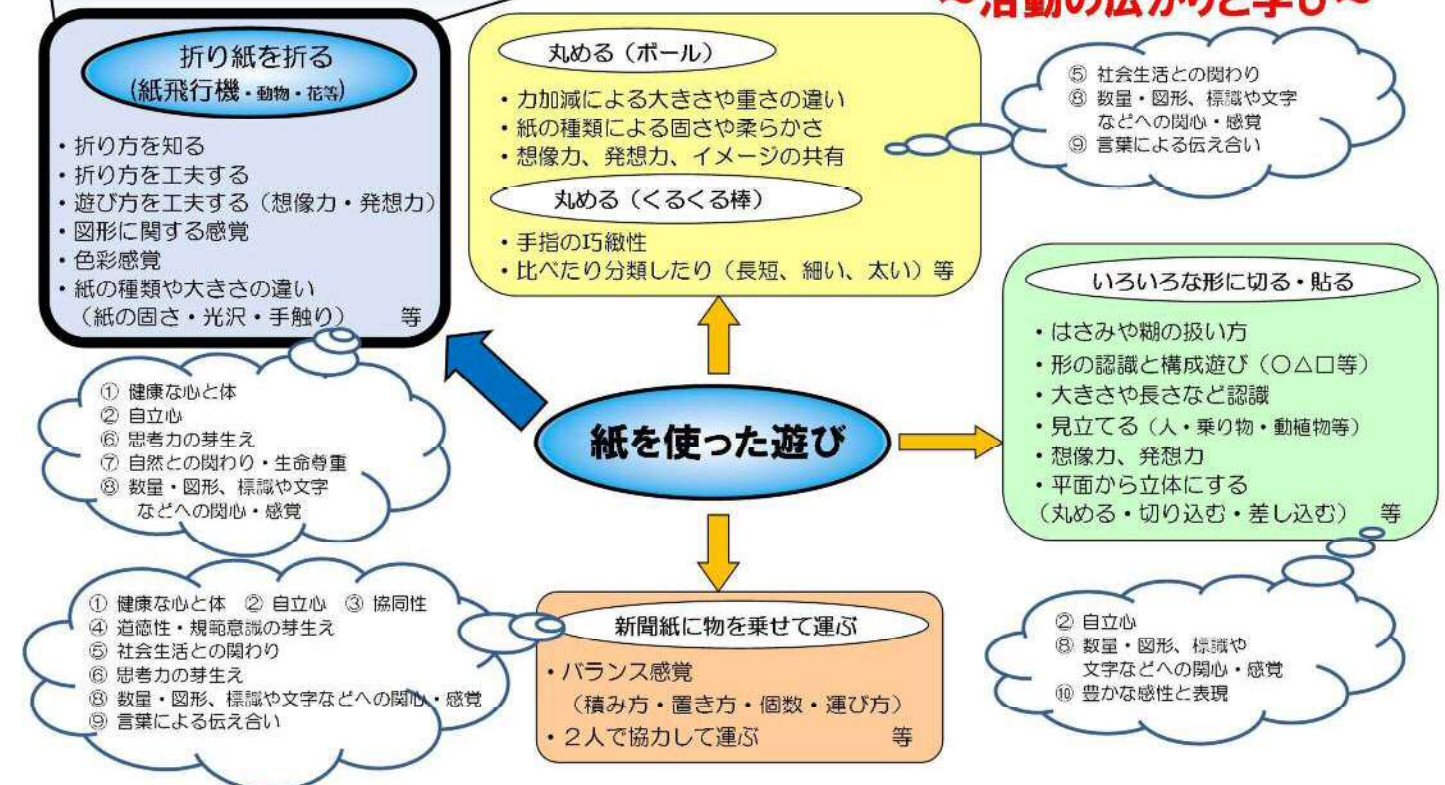
① 知識や技能

② 思考力・判断力・表現力等

③ 学びに向かう力、人間性等



「紙を使った遊び」 ～活動の広がりと学び～





スタートカリキュラム作成に向けて

**就学前教育・保育は、小学校教育の前倒しじゃないよ！
子どもが安心してスタートできるための授業の工夫って？**

＜スタートカリキュラムとは＞

小学校へ入学した子どもが幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創りだしていくためのカリキュラムです。

参考文献 H28 文部科学省 幼児教育に関する現状について



（ねらい）

「就学前教育・保育」と「小学校教育」における子どもの学びと育ちをつなぐカリキュラム作成をすすめる。

校区の子どもの実態に応じたスタートカリキュラム作成に向けて、5 歳児後半の活動が小学校につながっていく流れを一覧にしています。

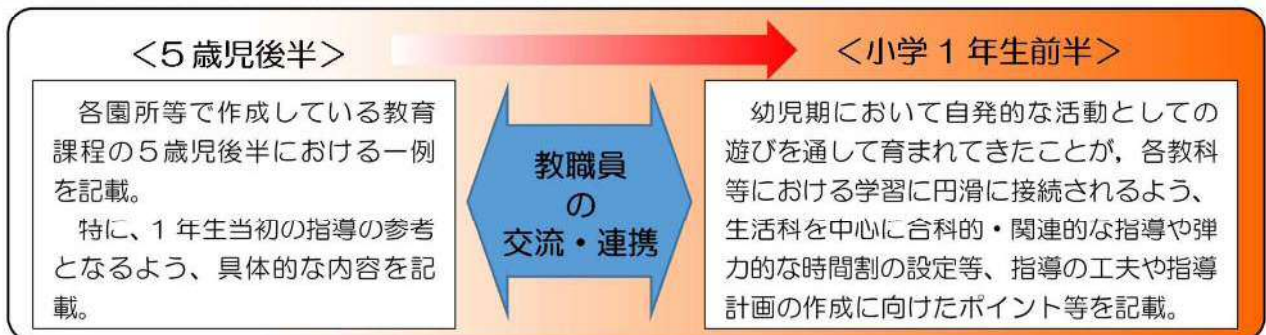
スタートカリキュラム作成にあたって、就学前教育・保育で大切にしてきたこと

- 取り入れることで、子どもに、**安心** が生まれます
- 小学校の学習につなげることで、子どもが自信を持ち、**成長** につながっていきます
- 小学校以降の子どもの姿を見通すことで、子どもの、**自立** を促していきます

●スタートカリキュラム作成に向けて【資料①】（P16）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の就学前教育・保育と小学校教育のつながりを意識するために、日常生活の中での主な「ねらい」や具体的な「活動例」を示しています。

●スタートカリキュラム作成に向けて【資料②】（P17）



【活用しよう！】

☛子どもの具体的な学びと育ちをつなぐために、子どもの実態に応じたスタートカリキュラムの作成をすすめていきましょう！

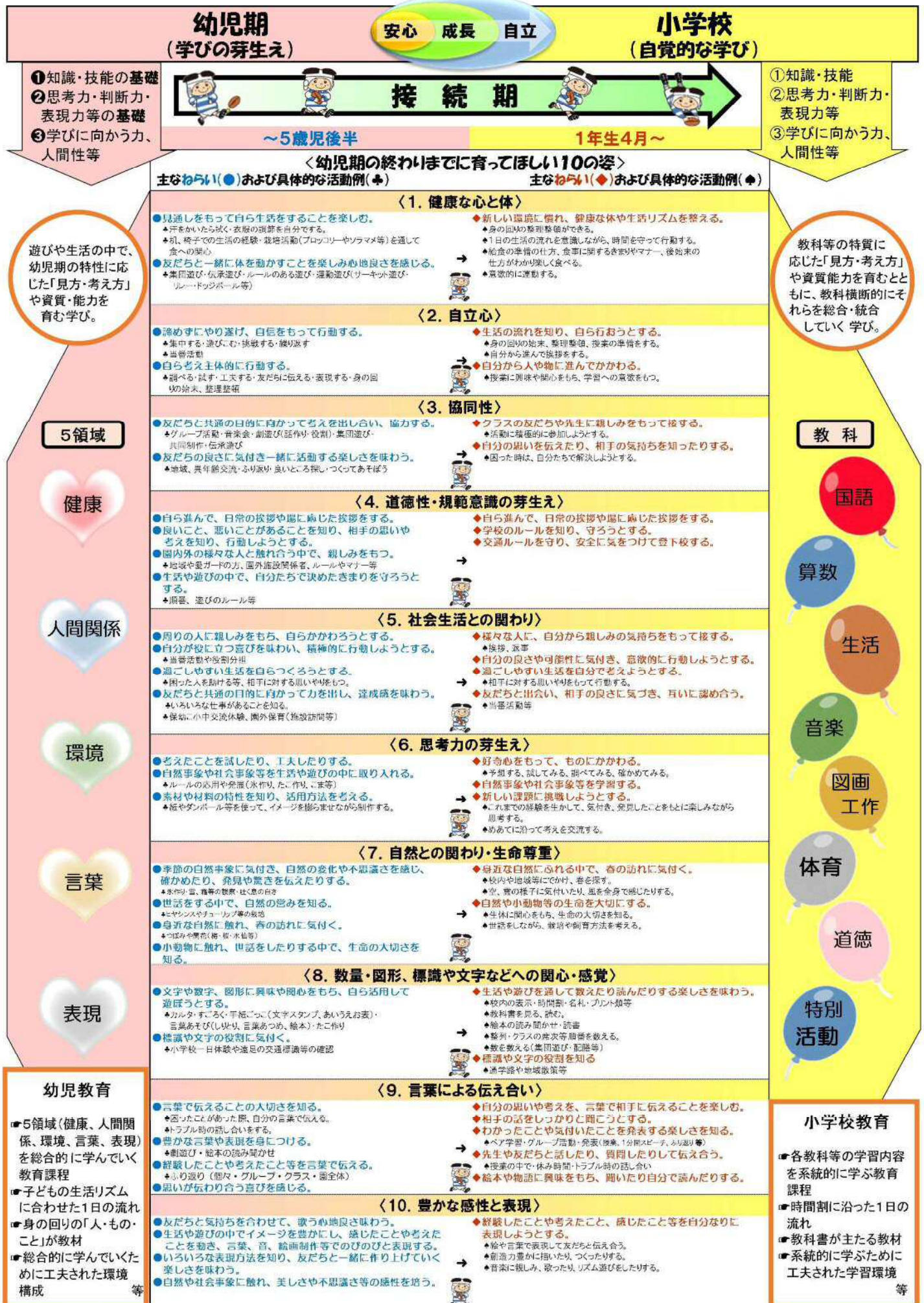
☛自校園所のカリキュラムを再検討してみましょう。

★「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム—スタートカリキュラムの導入・実践の手引き—」

（文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

★「スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方がより分かるスタートカリキュラム学びの接続モデルリーフレット」

（大阪府幼児教育センター）



年長児～10月		3月	1年生 4月	6月（7月）
つきたい力 〔知・徳・体〕 （子どもの育ち）	◆学ぼうとする力 自ら学び、考え、主体的に行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育む ◆豊かな心 他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む ◆健やかな体 たくましく生きるための健康や体力を自らつくり出す力を育む			
	【5領域】 ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す ・人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う ・好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする ・経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとしたり、言葉で表現しようとする ・豊かな感性や、表現する力を養う ※P7学びの連続性から考える授業内容（P12～14参照）			
主な活動や 経験内容	主な経験活動や教育の内容を記載しています。 【5領域】 ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す ・人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う ・好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする ・経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとしたり、言葉で表現しようとする ・豊かな感性や、表現する力を養う ※P7学びの連続性から考える授業内容（P12～14参照）			
環境構成（○） 及び 留意点（■）	○遊びが充実するような場を設ける ○子どもたちが、生活しやすい動線になるようにする ○自然や社会現象を生活の中に取り入れることができるようにする ○いろいろな素材や材料に触れることができるようにする ○文字や数字に興味をもてるような環境を整える ○経験したことを話したり、聞いたりできるようにする ■子どもの主体性が発揮できるようにする ■子どものよさをひき出すような言葉かけをする ■子どもどうしのつながりが深まるような支援をする			
ふれあい遊び ダンス 体操 等	わらべうた遊び、おにごっこ、ドッジボール、じゃんけん列車、ドンじゃけん、猛獣狩りに行こうよ、エビカニクス、フルーツバスケット			
絵本 物語	おおきなおおきなおいも、100かいだてのいえ、モチモチの木、エルマーのぼうけん、じごくのそうええ、おおきくなるっていいことは、一年生になるんだもん、どんぐり、ふゆめがつしゅうだん、かみひこきき、きもち、とんだち、あつちゃんあがつく			
歌 手遊び	さんぽ、うたえバンバン、あの子がつくから、カレンダーマーチ、数字の歌、春がきた、一年生になったら、あくしゅでこんにちは、グーチョキパーで何つくろう			
異年齢交流	運動会、つくってあそぼう、お別れ会、遠足			
行事 地域連携	〈子ども〉敬老のつどい、保育実習、職業体験、つくってあそぼう、もちつき、お楽しみ会 劇遊び、給食交流、体験入学 〈教職員〉引継ぎ、交流の事前打ち合わせおよび振り返り			
家庭との連携	・就学に向けて規則正しい生活習慣の見直しを図り、家庭との連携を密にする ・懇談会等で保護者と子どもの成長を共有し、今後の目標について共通理解をする ・安心して就学できるよう保護者が相談しやすい雰囲気をつくり、その機会を大切にします			

【教科】スタートカリキュラムを編成する際のポイント（●）

- 大単元を設定することが考えられる。
→「がっこうだいすき なかよしいっぱい」など
- 大単元には小単元を位置づけていく。
→「学校探検に行こう」「学校のはてなやびくくりを見付けよう」「見つけたものや人をお知らせしよう」など
- 小単元の主な学習活動には、図画工作や国語科と合科的・関連的に実施することで効果が上がるものがある。
→探検で見つけたことを絵に表したり、見つけた不思議を友達に伝えたりするなど
- 幼児期に大切に生きてきた生活リズムや一日の過ごし方などに配慮する重要性。
→週案を作成する場合には、朝の会から1時間目を連続した時間として設定するなど
- 幼児期に親しんできたことを、児童が一日の始まりを楽しい気持ちで迎えられるような学習活動を取り入れたいとする。
→手遊びや歌、リズムに乗って体を動かす、絵本の読み聞かせ、児童からのお話タイムなど
- 時間配分においても児童の生活リズムや集中する時間、意欲の高まりを大切にすることの工夫が考えられる。
→15分程度の時間を利用して時間割を構成したり、2時間続きの学習活動を位置付けるなど

＜編成の留意点＞

- ◆生活科と、各教科の連携を図る。
＜生活科の目的・・・自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育む＞
- ◆低学年における教育課程全体を見渡す。
＜幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続を図られるように工夫する＞
- ◆特に小学校の入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通して育まれてきたことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められる。
（参考）小学校学習指導要領解説「総則編」「生活編」

- ◆おにいさん、おねえさんに、憧れをいだくとともに安心感をもたせる。
＜1年生を迎える会（対面式）、給食交流、登下校時の準備・掃除の手伝いなど＞
- ◆子どもの情報交流など、教職員の相互連携を進める。＜引継ぎ＞
＜学校探検、参観、遠足、運動会、七夕まつり、プール交流など＞

やってみよう！

スタート カリキュラムを 創ろう!

理解

実践

改善

基本的な考え方

一人一人の子供の成長の姿から 編成しよう

入学時の子供の発達や学びには個人差があり、それぞれ経験や幼児期の教育を踏まえたきめ細かい指導が求められます。そのため、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を踏んだり、実際に幼稚園・保育所等を訪問し教職員と意見交換をしたり、要録等を活用したりして、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を生かしてスタートカリキュラムを編成しましょう。

子供の発達を踏まえ、 時間割や学習活動を工夫しよう

入学時の子供は、鉛筆や教科書を使う学習に慣れをもちています。一方、長い時間、じっと椅子に座って学習することが難しく、身体全体を使って学ぶという発達の特性があります。この時期の子供の学びの特徴を踏まえ、例えば、20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したり、活動性のある学習活動を行ったりするように工夫しましょう。

生活科を中心に合科的・関連的な 指導の充実を図ろう

自分との関わりを通して総合的に学ぶ子供の発達の特性を踏まえ、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図りましょう。このような指導により、自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆとりとした時間の中で進めていくことが可能となります。

安心して自ら学びを広げる 学習環境を整えよう

子供が安心感を持ち、自分の力で学校生活を送ることができるよう学習環境を整えましょう。子供の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの観点で子供を取り巻く学習環境を固めましょう。

スタートカリキュラム編成の手順

基本的な考え方を踏まえ、例えば①～③を通してスタートカリキュラムを編成することが考えられます。

学びの芽生え
(幼児期)

① 幼児期の子供を理解する

自覚的な学び
(児童期)

② 期待する成長の姿を共有する

③ スタートカリキュラムを編成する

- 成長の姿を週や月の単位で明らかにする
- 成長の姿に適合した場元(含科・関連など)を構成し記列する
- 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する

例えば

入学から夏休みまでのカリキュラム



時期	4月第1週 ～第2週	4月第3週 ～4月末頃まで	5月頃	6月頃	7月頃
ねらい	・心をほぐす ・学校に対する安心感 ・先生や友達と仲良く 考える	・自分のできることは 自分で 着しい集団のルールを 考える		・関わりを広げる ・自己発掘・主体性の発揮	
学習活動の時間配分	3週間以上分	3週間以上分	3週間以上分	3週間以上分	3週間以上分

例えば

4月第2週のカリキュラム

朝の会	4 / 13 (月)	4 / 14 (火)	4 / 15 (水)
1	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう
2	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう
3	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう

朝の会	4 / 13 (月)	4 / 14 (火)	4 / 15 (水)
1	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう	「なかよくなろう」* ・手遊び ・お話読んで ・お話し聞いて ・歌って踊ろう
2	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう
3	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう	「かっこいいいきいき なかよしっばい」 ・国・図・生 ・学校探検に行こう

※この時間については、授業時数以外の教育活動として位置付けたり、各教科等で実施したりすることが考えられます。
(各教科等で実施する場合には、学習活動がその教科等の目標や内容を実現するものである必要があります。)



教職員の声(気づき)より

【エピソード】



地域で育つ子どもたちのために、
校種間を越えて意見交換していきたいね！
できることから、やっていこう！

この砂、何か違うね

「この砂さらさらしてる」「つぶつぶ」
「さらさらした感じ」

砂の感触を楽しむと同時に、その感触を言葉にすることで、実感が伴って言葉を発する。このように豊かな言葉は、遊びを通して培われている。小学校に入っても「オノマトペ(擬音語・擬態語)」の学習において、これまでの経験を通して言葉が繋がっていくのではないかと思う。

この砂で大きな山をつくりたいんだけどな...

A児「大きな山を作りたいな」
B児「うん、強くて高い山がいい！」
C児「でも、さらさらの砂は小さい山しかできないよ どうしよう」
B児「白い砂はすぐ壊れるもん。
水を混ぜた方がいいのかな」
C児「手でトントンしたら」

硬い山を作るには、どんな方法が良いのか考えを出しあい、何度も試す日々の中で、より良い方法を生み出していく。遊びこむ中で役割を分担したり、考えたことが実現し喜びあったりしながら友だちと協力して作る楽しさを味わっていくと感じる。

そういうことだったんだね！！
～学びはつながっている！泥団子転がしより～

小学3年生の卒園生が久しぶりに幼稚園に遊びに来た。

「先生、昔、砂で作った団子を螺旋滑り台の上から転がす遊び、面白かったね。」
「そういえば、螺旋の外側のレーンから転がす為に、いっぱい人が並んでいたね」
「だって、内側のレーンから転がした団子は、途中で滑り台から飛び出して下に落ちるけど、外側から転がした団子は、滑り台の壁にぶつかって、最後まで転がるから人気があったね。僕、今、思うんだけど、あれって遠心力じゃないかな」
遊びの中で感じていたことが、小学校に入ってから学びとつながって、科学的なものの見方につながっていることを感じた。

～「保・幼・こ」と小・中学校の教職員の話し合いを通して～

「保・幼・こ」の教職員より

- ❖互いに意見を出し合うことに意義があると感じた。自分が大切にしてきたことや大切にしなければならぬことの再認識や小学校の先生方との共通理解ができた。
- ❖具体的に小学校で学ぶ内容のどこにつながっているのかなど、広く総合的な視点で子どもの育ちを考えていかないといけないと感じた。

小・中学校の教職員より

- ❖就学前の先生方からの話を聞き、与える教育と、引き出す教育のバランスがとても大切だと感じた。自分自身、与える教育をしがちだったが、子どもたちが自分で学びたいという意欲をもつためには、こちら側の「待つ姿勢」がひきだす教育の重要な役割をもつと感じた。日々の授業の発問を大切にしたいと思った。
- ❖就学前の先生方が子ども達から出る言葉や行動を大切にしながら教育・保育をされていることが、よくわかった。たくさん遊び、友だちとぶつかりあいながら人間としての土台がしっかりと出来上がっていくのだと思った。
- ❖育てたい子ども像は同じだと感じた。自分の意見を伝えられる子どもを育てるために、いろいろな場面を設定されているのだなと思った。

※就学前教育・保育は、遊びを通して総合的な力を育てています。エピソードの中の育つ力は、その一部です。



校種が違くと分からないこともあるよね。「分からない」「教えて」と言える、そして、一緒に考えたこと、気づけたことが「よかったね」「子どものためになるね」と思えることが接続の始まりだよ！

【文化祭の取組みから】

- ♥ 生徒からでてきた内容について、考えさせたり、選択させたりすると意欲的だった。
- ♥ 試行錯誤する経験の大切さを感じた。

中学校の教職員から

【理科の実験から】

- ♣ 様々な経験をしている子どもは、推測をしたり周りの友だちと一緒に考えたりしていた。
- ♣ また、失敗を恐れない子は、結果に左右されずに、自分で試したり表現したりしていた。

【生活科「手作りおもちゃのお店屋さん」より】

- ♥ 様々なおもちゃを作る活動の中で、「折り紙を折って、切ったらきれいな形ができるよ」「看板がいるね」等、子どもどうして話し合いながら、作っている姿がみられた。

小学校の教職員から

【生活科「砂場あそび」より】

- ♣ ケーキ屋さんができ、売り買い等のやりとりが始まった。
- ♣ 日記に、どろだんごのつくり方を文章で書いている子がいた。

1限45分の授業の工夫を ～子どもの就学前の経験を生かす～

就学前は、時間割やチャイム、教科書がない。

- ・活動後のふり返りをし、次への意欲につなげている。
- ・見通しをもって行動できるように、環境設定や声かけ等の工夫をおこなっている。

小学校以降は、時間割やチャイム、教科書がある。

- ・子どもの考えや思いが表現できるように、“待つ”時間を大切にしていきたい。

「保・幼・こ」の教職員から

【手作りおもちゃのお店屋さんの中で】

- ♥ 様々な素材にふれ、自分で選んだり、組み合わせたりして、繰り返し遊んでいた。
- ♥ 友だちに教えたことで、友だちや教職員等にほめられ、自己有用感につながっていた。

【砂場あそびの中で】

- ♣ 砂場に水を入れて「どぼどぼ」「しみていくね」と、様々な言葉を使ったり、身体で表現したりしていた。
- ♣ 年齢とともに、個々から、グループの遊びへと広がりがあがる。

「保・幼・こ」・小・中学校の連携をベースとした、先生方どうしの「学び」のつながり

～「保・幼・こ」と小・中学校の教職員の話し合いを通して～

「保・幼・こ」の教職員より

- ☛ 就学前教育・保育の中で様々な取組みがあることを知った。この様な意見の交流が数多くできれば、就学からの様々な段差が少なくなるのではないかと感じた。

小・中学校の教職員より

- ☛ 子どもが「言いたい」と思えるような発問や「もっと知りたい!」と意欲を高められるような授業をすることが大事だと再確認できた。子どもを認めていくことが、すべての学びにつながることを学んだ。
- ☛ 今、中学校でやっていることが、実は就学前からつながっていることがわかった。

♣ 吉岡先生より講評

- ・3つのグループの報告から共通ででてきた内容をまとめると、今まで言われてきた「興味」「関心」「意欲」を子どもに育てることが大切である。
- ・教職員や大人の「待つ姿勢」は、どの学年でも一緒である。
- ・教職員が子どもに概念をつくらせてしまわないように、発問の仕方を工夫することが大切である。

3 低学年からの「よりよい学び」に向けて



学力向上のスタートはとても大事だね。
自分の取組みを確認・チェックし、子どもにとって
よりよい学びにつなげていこう！

ひとりで悩み、抱え込まないでね！

困った時は、成長できるチャンスでもあるよ。

周りの人に相談していこう！それがチーム学校園所だよ。

(ねらい)

就学前の学びや育ちをベースに、義務教育のスタートである小学校低学年段階において、児童一人ひとりに学習面や生活面の基礎基本を身につけさせ、その後の基盤とすることは大切である。

学級づくり・学習指導・生活指導で、「これだけはおさえない事」「配慮する観点」等を整理するとともに、義務教育9年間の見通しをもった指導の要点を理解する。

<学級づくり>

学級は、どの子どもにも安心できる場、自己有用感や肯定感、充実感等を得られる場であることがとても重要です。

→そういった場づくりに向けた「確認シート」を作成しました。(P22)

<学習指導 ～授業編～>

学力向上については、就学前教育・保育で育まれた資質・能力の基礎を踏まえた低学年からの教育活動（各教科等）や、学びに向かう力等のいわゆる非認知的能力を含めた学習支援などの重要性が、新しい学習指導要領においても示されています。

→学習指導の要点についての「確認シート」を作成しました。(P23)

<生活指導 ～生活編～>

生活指導については、就学前教育・保育で育まれた育ちや学びに加え、子どもの生活背景や特性、または自主性や協調性等のいわゆる非認知的能力を意識した生活指導など、低学年からの取組みが重要です。

→子どもが学校生活の各場面を通して身につけてほしいことや大切にしてほしいことについての「確認シート」を作成しました。(P24)

【活用しよう！】

- 確認**……低学年で必要な学習指導の要点、子どもに身につけさせたいことや学級づくりで大切にしたいことについて確認しましょう。
- チェック**…定期的に、確認シートでセルフチェックし、さらなる向上につとめましょう。
- 相談**……相互参観を行うなど、教師等で確認しあい、気になる点については一人で抱えこまず、管理職や学力向上支援コーディネーター、生活指導担当者、教育センター相談員、スクールカウンセラー等に相談し、具体的な手立てを考えて取組みをすすめましょう。



学級づくり編



＜P5・6の「円滑な接続に向けた大切なポイント」をもとに実践へ＞

	学級が
安心	☐ 間違いを言ってもいいという雰囲気がなく、安心して自分の意見を言えるようになっている。
	☐ 自分の思い（意見）を相手に分かってもらいたいと思い、発言するようになっている。
	☐ 相手がどんな思い（意見）をもっているのかに関心をもち、その思い（意見）に寄り添い、聴こうとするようになっている。
	☐ 各中学校区の実態に応じて新たな項目を考えてみましょう。
意欲	☐ 分からないことをそのままにせず、意欲的に質問するようになっている。
	☐ 与えられた課題や問いに答えるだけでなく、身の回りのことや生活のことと重ねて学習するようになっている。
	☐ 学んだことを、学校生活や家庭生活にいかそうとしている。
	☐ 各中学校区の実態に応じて新たな項目を考えてみましょう。
リレーション	☐ 一人ひとりの子どもが、他者との関わりの中で、自らのよさを発揮し、先生や友だちと望ましい人間関係を築こうとしている。
	☐ 自分の大切さとともに他人の大切さが認められていることを、子ども自身が実感できるような、あたたかい学級となっている。
	☐ 各中学校区の実態に応じて新たな項目を考えてみましょう。

学級づくりで大切にしたいこと

「初任者・新規採用者研修の手引き」より

ア 子どもの実態把握

生活背景を含めて、子どもの実態を把握し、子どもの行動の本当の意味（子どもの心の中にあるメッセージ）を理解しようとする。

イ 子どもとともに作るルール

子どもとともに、クラスの約束・ルールをつくり、他者と共に過ごすための社会性を育てる。

ウ 認め合い、高め合う学級集団

授業においてもグループ学習を取り入れる等、互いに認め合い、高め合う学習集団をつくる。

エ 厳しさと優しさのバランス

子どもの実態に応じて、厳しさと優しさのバランスのとれた毅然とした指導を行い、子どもたちが安心して学習や生活ができるクラスをつくる。

オ お互いをよく知る活動

人間関係づくりのゲーム等を取り入れ、子どもがお互いのことをよく知っているあたたかいクラスをつくる。

カ 班活動など組織的な活動

クラス生活のあらゆる場面で生活班や学習班など、グループ活動（組織的な活動）を大切にする。

キ 子どもの自主性を育てる

SHR（朝の会や帰りの会）の運営を子どもに任せるなど、子どもの自主性を育てる。

ク もめ事を主体的に解決する力

もめ事や対立をチャンスととらえ、子どもたちに自ら主体的に解決する実践的な力を身に付けさせる。

ケ 子どもが輝く場面づくり

クラスのみんなで楽しめる活動を企画し、子ども一人ひとりのよさ・持ち味が輝く場面をつくる。

授 業 編



<P5・6の「円滑な接続に向けた大切なポイント」をもとに実践へ>

子どもが	教員の指導（実践） ～一人ひとりの子どもをよく見て、子ども理解を深めましょう～	
主体的に学ぶために	めあての提示	☐ めあてを黒板に示している。 ☐ 子どもの疑問からめあてを引き出している。 ☐ めあてを意識して、1時間の授業を進めている。
	授業の見通しの提示	☐ 授業のはじめに、流れを伝えている。 ☐ 授業の流れを黒板等に提示している。 ☐ 今学習しているところがどこかを示している。
	考えを伝え合う時間の設定	☐ ペアやグループ等で考えを伝え合う時間を設けている。 ☐ ペア学習等のときに伝え合う内容を明確にしている。 ☐ お互いの発言を大切にしよう指導している。 ☐ ペアやグループでの学びを全体に広げるとともに次の学習展開にいかしている。
	振り返りの実施	☐ 振り返りを行っている。 ☐ めあてを意識して、振り返りを行っている。 ☐ 振り返りを次の学習につなげている。（生かしている）。
学習規律を守るために	チャイムで授業開始	☐ 始まりのチャイムのときに、教室にいる。 ☐ 子どもが揃っているか確認して、授業を始めている。 ☐ 次の時間の学習準備をさせ、開始時刻を知らせてから休み時間にしている。
	授業前後の挨拶	☐ 授業のはじまりや終わりに挨拶をしている。 ☐ チャイムと同時に、はじまりや終わりの挨拶をしている。
	準備物の確認	☐ 授業に必要なものが机にあるか口頭で伝えている。 ☐ 授業に必要なものを視覚的に示している。 ☐ 全員ができていることを確認している。
	活動の区別	☐ 「聞くとき」「書くとき」「話すとき」など、活動を区別するよう指導している。 ☐ 子どもが活動を切り替えていることを確認している。また、教員が話すときは、静かになるのを待ってから話している。
話すため、聞くために	話し方・聞き方のモデルの提示	☐ 話し方や聞き方のモデルを示している。 ☐ 教員がよきモデルとなっている。 ☐ できている子どもを認めている。 ☐ がんばろうとしている子どもに気づき、認めている。
	声のものさしや話型の提示	☐ 声のものさしや話型を示している。 ☐ 教員がよきモデルとなっている。 ☐ できている子どもを認めている。 ☐ がんばろうとしている子どもに気づき、認めている。
	話し方の工夫	☐ わかりやすい言葉で話している。 ☐ 聞き取りやすい声の大きさと速さで話している。
		☐ 各中学校区の実態に応じて新たな項目を考えてみましょう。 ☐ ☐

生活編



<P5・6の「円滑な接続に向けた大切なポイント」をもとに実践へ>

項目	子どもが
あいさつ	☐ あいさつを返すことができる。 ☐ 自分からすすんであいさつができる。
整理整頓	☐ 持ち物の片付ける場所がわかる。 ☐ 正しい場所に片付けることができる。 ☐ 使いやすいように整える。
時間を守る	☐ 登校時間を守ることができる。 ☐ チャイムの合図で行動できる。 ☐ 時計を見て時間を意識して行動することができる。
日直当番	☐ 当番の仕事がわかっている。 ☐ 友だちと協力して活動することができる。 ☐ 最後まで責任を持ってやり遂げることができる。
給食当番	☐ 当番の仕事がわかっている。 ☐ 当番の前にしっかりと手洗いをする。 ☐ エプロン・マスクを着用する。 ☐ 約束を守って自分たちで準備や配膳ができる。
掃除当番	☐ 掃除に必要な物、すべき場所がわかる。 ☐ 掃除用具を正しく使うことができる。 ☐ 友だちと協力して最後まできれいに掃除をすることができる。 ☐ 掃除用具の後片付けをする。
友だちづくり	☐ 友だちと一緒に遊ぶことができる ☐ 友だちを遊びにさそふことができる。 ☐ 自分の思いを言葉や表現で伝え合うことができる。 ☐ 相手のきもちに気づき、思いやることができる。 ☐ 友だちのよさが見つけられる。
家庭学習	☐ 宿題を忘れずにする。 ☐ 宿題を、決められた場所（先生の机上等）に提出する。 ☐ 「家庭学習のてびき」を見て、学習する。
	☐ 各中学校区の実態に応じて新たな項目を考えてみましょう。 ☐ ☐

子どもたちが『早寝・早起き・朝ごはん』などの望ましい生活習慣を確立できるよう、「学校生活支援カード」も参考としながら、家庭との連携もおすすめしましょう。



虐待やいじめの早期発見の観点から「服装の乱れ」「不衛生なおい」「気になる表情」「普段の登校時刻との違い」「休み時間の様子」などにも着目しましょう。

4 新1年生の「よりよいスタート」に向けて



どんな子どもたちが入学してくるのかなあ？
ドキドキ、ワクワクするね。
よりよいスタートを切るための準備を！

(ねらい)

小学1年生の担任(学年集団)が、事前に入学してくる子どもの強み・弱み、生活習慣や保護者の思いや願いなどの情報を早い段階で得る。

早い段階で「子ども理解」を深めることにより、よりよいスタートを切る。

(よりよい学級集団づくりや、適切な学習指導・生活指導につなげる)

<子ども理解>

新入生を受け入れる小学校においては、素敵な出会いを描く一方で、下記の<現状>から、大きな不安を抱えています。

→その不安の軽減と、教職員と子どもがよりよいスタートをきるための一つのツールとして、「学校生活支援カード」(以下、「支援カード」)を作成しました。

<現状>

- ♠ 小学校には、公立の幼稚園、こども園、保育所(園)をはじめ、私立の幼稚園やこども園、保育所(園)等、様々な就学前教育・保育施設から、子どもが入学してくる。
- ♠ 就学前施設では、教職員と保護者が顔を合わせ、必要な情報を交換しやすい環境にある。
- ♠ 保護者は、子どもが小学校に入ると、環境の変化から不安も高くなりやすい。 など

【活用しよう!】

- ☛ 学校独自で必要に応じて項目(子ども／保護者)」を追記しましょう。
- ☛ 2年、3年への引継ぎ方法を検討してみよう。
- ☛ その他、子ども理解に向けて、様々な場面で活用してみよう。

「支援カード」活用に向けたスケジュール<例>

- ① 就学届け受付時(11/1～11/20)に、学校より他の書類とともに保護者に渡す。
- ② 就学前健康診断(11月末～12月初)又は学校説明会(1月末頃)当日に学校へ提出。
- ③ 4月の学級編成の参考資料に活用。
- ④ 家庭訪問時等に「支援カード」をもとに保護者と話をし、「子ども理解」や「学級づくり」等につなげる。
- ⑤ 2年進級時に、担任に引継ぐ。 など



学校生活支援カード



学校生活支援カードとは

小学校では、これまでと違った環境での学習がスタートします。お子さんも不安に思うことがある一方で、新しい出会いや初めて経験する授業など、期待を膨らませていることと思います。

このカードは、お子さんの入学後の学校生活をよりよいものにするために、ご家庭や、就学前教育・保育における生活の様子などを学校に伝えていただくものです。

ご協力いただきますようお願いいたします。（書ける範囲で結構です）

※記入後は、「就学前健康診断日」又は、「学校説明会日」に、学校へご提出ください。

フリガナ		フリガナ	
お子さんのお名前		記入者のお名前	

♣お子さんは

当てはまるところに○をつけてください。

	質 問	そう思う	やや そう思う	余り 思わない	そう 思わない
1	幼稚園・保育所（園）・こども園等に行くことが楽しいと言っていましたか				
2	幼稚園・保育所（園）・こども園等では、友だちとよく遊んでいましたか				
3	幼稚園・保育所（園）・こども園等の出来事を、ご家庭で話をしていましたか				
4	ひとりで自分のことができますか				
5	必要なとき「ありがとう」「ごめんなさい」が言えますか				
6	良い・悪いの判断ができますか				
7	約束を守って遊ぶことができますか				
8	<他に聞いておきたいことがあれば追記等しましょう>				

♠保護者の方は

	質 問	そう思う	やや そう思う	余り 思わない	そう 思わない
1	子育ては楽しいと思いますか				
2	子育てに関わる相談相手（協力者）がいますか				
3	お子さんと触れ合う時間を大切にしていますか				
4	お子さんとともに、規則正しい生活を心がけていますか				
5	お子さんに挨拶や身の回りの整理等、基本的生活習慣を身につけさせていますか				
6	P T A活動等や、学校行事等に積極的に参加しようと思いますか				
7	現在、ご自身が家庭生活で困っていることはありませんか				
8	<他に聞いておきたいことがあれば追記等しましょう>				

♥その他、学校生活をむかえるにあたって、特に伝えたいことがあればお書きください。

<お子さんの良いところ（得意なこと）や、成長への願い>

<お子さんの生活面や健康面など、不安に思われていること（ ■■■ など）>

<その他（▲▲▲など）>

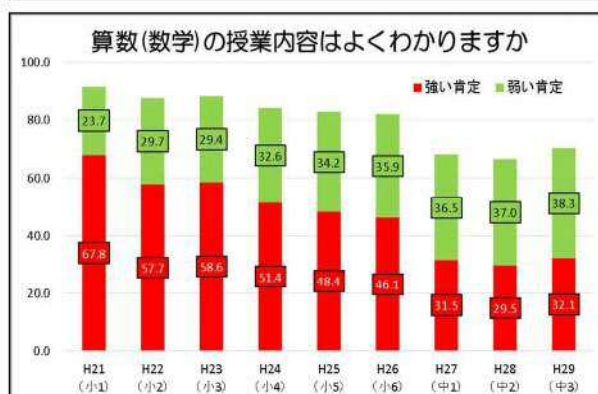
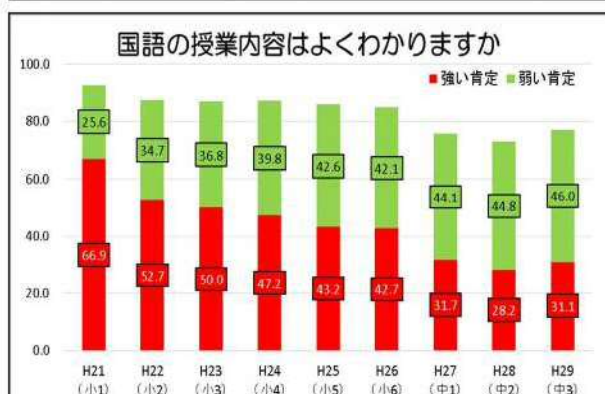
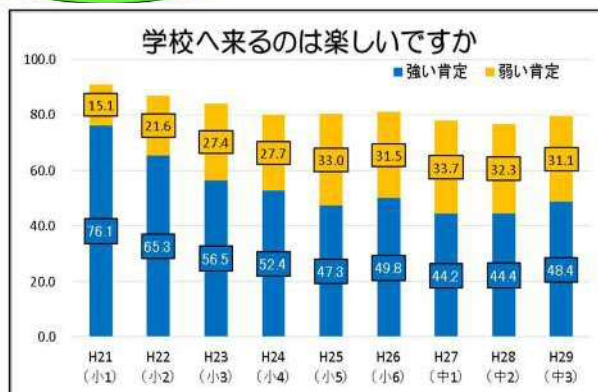
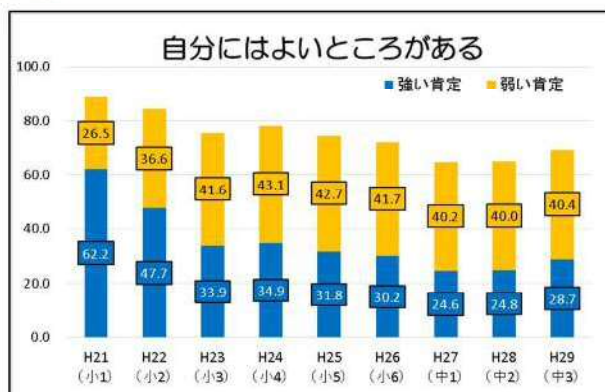


お子さんの健康面や子育て等お困りのことがあれば、養護教諭や担任等にご相談ください。
また、教育センター相談員やスクールカウンセラーも活用できますのでご相談ください。





子どもたちはどのように
成長(変容)するんだろう。
例えば、下のグラフから
どんなことが分かるかな？



(学びのトライアルアンケートより)

◆同一集団による経年比較【H29年度 中学卒業生】◆



各種調査等も活用し、子どもたちの
成長(変容)を分析(見立て)しよう！
そして、そこで捉えた取組みの
成果と課題を学校園所でつなぎ、
本市の教育・保育の質を高めていこう！

①ありのままの姿

②学力調査

③意識調査

等

- ・子どもたちの言動や人とのかかわり、子どもたちの作品や感想 等
- ・「東大阪市標準学力調査」「学びのトライアルアンケート」「全国学力・学習状況調査」「学校園所独自の調査」等



PDCA サイクルの「CA」で、活用できるよね！

H30～ 学びのトライアルアンケート【児童・生徒用】

小学校1～3年		小学校 4年		小学校 5・6年		中学校 1～3年	
1	朝食を毎日食べていますか ※						1
2	普段(月～金)、何時ごろに起きますか。						2
3	普段(月～金)、何時ごろに寝ますか。						3
4	自分には、よいところがあると思いますか ※						4
5	家で学校の復習(宿題)をしていますか						5
6	学校のきまりを守っていますか						6
7	友達との約束を守っていますか						7
8	国語の授業内容はよく分かりますか						8
9	読書は好きですか						9
10	算数の授業内容はよくわかりますか						10
11	学校へ来るのは楽しいですか						11
12	どのくらい学校の図書室に行って本を読んだり調べたりしますか(授業中はのぞく)						12
13	先生は、あなたががんばっていることを応援してくれますか。						13
14	先生は、あなたのよいところをほめてくれますか						14
15	困ったときに、相談できる人がいますか						15
16	運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか						16
水色の項目は、小学校 1年生から中学校3年生 までの9年間取り続けて います。		17	外国語活動(英語)の授業は好きですか				17
		18	普段の授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか				18
		19	普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか				19
		20	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか				20
		21	普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか				21
黄色の項目は、小学校 3年生から中学校3年生 までの7年間取り続けて います。		22	普段の授業では、やる気をもって授業に取り組んでいますか				22
		23	将来の夢や目標を持っていますか				23
		24	自分と他の人との違いを大切にすることができますか				24
		25	あなたは人の役にたっていると感じることがありますか ※				25
		26	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか				26
桃色の項目は、小学校 4年生から中学校3年生 までの6年間取り続けて います。		27	いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか				27
		28	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか				28
		29	少人数授業は普段の授業よりよく分かりますか (少人数授業を受けていない場合は回答不要です)				29
		30	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか				30
		31	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか				31
緑色の項目は、小学校 5年生から中学校3年生 までの5年間取り続けて います。		32	外国語活動の授業中に先生や友達と英語を使って 簡単なコミュニケーションをとることができますか				32
		33	授業で学んだ英語を使って、外国の人と コミュニケーションをはかりたいですか。				33
		34	自分の健康を考え体を大切にしていますか。				34

※ 平成30年文部科学省が策定した「第3期教育振興基本計画」に示された、今後の教育政策に関する5つの基本的な方針における「測定指標」「参考指標」と関連がある項目



就学前教育・保育と**学校**教育の
接続・連続性を重視した
学力向上対策



<作成・発行>

東大阪市教育局委員会事務局

学校教育推進室

〒577-8521

東大阪市荒本北一丁目1番1号

電話：06-4309-3268

FAX：06-4309-3838

